

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

和歌山県和歌山市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

和歌山市 SDGs 未来都市計画

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

和歌山市 SDGs 未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

「持続可能な海社会を実現するリノベーション先進都市」

①世界が注目する都市機能と自然環境の最適調和都市、②心地よいコミュニティの中で送る豊かな暮らし、③リノベーション先進都市における域内経済好循環の実現、④地域人材が活躍する実践教育の確立による多様な人材の育成、⑤海をはじめとする豊かな自然に触れられる快適なまち

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 働きがいも経済成長も  住み続けられるまちづくりを	 質の高い教育をみんなに  住み続けられるまちづくりを  つくる責任つかう責任	 安全な水とトイレを世界中に  住み続けられるまちづくりを  海の豊かさを守ろう

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	市内総生産【8. 1】	2015年度 16,941 億円	2018年度 17,928 億円	2030年度 16,941 億円	106%
2	サービス産業の労働生産性【8. 2】	2016年度 413 万円/人	2016年度 413 万円/人	2030年度 全国平均	—
3	創業件数【8. 3】	2018年度 140 件	2020年度 107 件	2030年度 748 件（累計）	28%
4	観光消費額【8. 9】	2018年 47,554 百万円	2020年 31,962 百万円	2030年 52,870 百万円	60%
5	年間宿泊客数【8. 9】	2018年 959 千人泊	2020年 650 千人泊	2030年 1,110 千人泊	59%
6	リノベーション実事業化物件数（累計）【11. 3】	2018年度末時点 18 件	2020年度末時点 26 件	2030年度末時点 54 件（リハスタート開始案件）	22%
7	まちなか居住人口の比率【11. 3】	2018年度末時点 8.8 %	2020年度 8.8 %	2030年度 9.4 %	0%
8	高校生の市内就職率【4. 7】	2018年度 82.5 %	2020年度 79.1 %	2030年度 91.3 %	87%
9	市内公共交通機関の年間輸送人数【11. 2】	2018年度 29,278.0 千人	2020年度 19,822 千人	2030年度 30,761 千人	64%
10	高齢者が住み慣れた地域で充実した生活を送れていると思っている市民の割合（市政世論調査）【11. 7】	2018年度 57.5 %	2020年度 61.3 %	2030年度 60.5 %	101%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
		2018年度		2020年度		2030年度		
11	ボランティア登録団体数【12.8】	2018年度	422 団体	2020年度	484 団体	2030年度	433 団体	564%
12	地域住民によるまちづくり活動やふれあい活動に対する市民満足度（市政世論調査）【12.8】	2018年度	14.1 %	2020年度	10.3 %	2030年度	22.9 %	45%
13	海・山・川などの豊かな自然環境に対する市民満足度（市政世論調査）【6.3】	2018年度	62.5 %	2020年度	65.3 %	2030年度	63.6 %	103%
14	まちなみの美しさに対する市民満足度（市政世論調査）【11.4】	2018年度	31.9 %	2020年度	31.7 %	2030年度	37.0 %	86%
15	漁獲量【14.2】	2018年度	458.8 t	2020年度	455.4 t	2030年度	547.4 t	83%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

年68件ベースを想定していた「創業件数」や、「高齢者が住み慣れた地域で充実した生活を送れていると思っている市民の割合」は順調に推移し、ボランティア登録団体数は既に目標値を達成している一方、直近で数値を拾えたその他の指標の進捗は思わしくない状況となっている。特に、コロナ禍により、「観光消費額」と「年間宿泊者数」の数値には大幅にマイナスの影響が現れている。厳しい状況が続くことが予想されるが、今後の反転攻勢に向け、国立公園友ヶ島の魅力向上に向けた取組等に尽力しているところである。

未来都市計画にも記載した地元のテレビ局を活用したSDGsに関する情報発信として、2020年12月に1時間のSDGs推進特別番組を制作・放送いただくことができた。また、ステークホルダーとの連携として、花王株式会社とSDGsに関する連携協定を締結し、無人島の友ヶ島に漂着する海洋プラスチックごみのリサイクル化など、地域課題の解決に向け協働での取組を進めている。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年 実績	2019年 実績	2020年 実績	2021年 目標値	達成度 (%)
1	①リノベーションまちづくりを核としたまちなかの魅力向上	海・山・川などの豊かな自然環境に対する市民満足度（市政世論調査）	2018年度 62.5 %		2019年度 58.9 %	2020年度 65.3 %	2021年度 62.8 %	104%
2	①リノベーションまちづくりを核としたまちなかの魅力向上	創業件数	2018年度 140 件		2019年度 102 件	2020年度 107 件	2021年度 204 件（累計）	102%
3	①リノベーションまちづくりを核としたまちなかの魅力向上	まちなか居住人口の比率	2018年度末時点 8.8 %		2019年度 8.8 %	2020年度 8.8 %	2021年度 9.1 %	0%
4	①リノベーションまちづくりを核としたまちなかの魅力向上	リノベーション実事業化物件数（累計）	2018年度末時点 18 件		2019年度末時点 20 件	2020年度末時点 26 件	2021年度末時点 27 件	89%
5	②郊外漁村エリアの持続可能な地域づくり	高齢者が住み慣れた地域で充実した生活を送れていると思っている市民の割合（市政世論調査）	2018年度 57.5 %		2019年度 53.8 %	2020年度 61.3 %	2021年度 58.5 %	105%
6	②郊外漁村エリアの持続可能な地域づくり	地域住民によるまちづくり活動やふれあい活動に対する市民満足度（市政世論調査）	2018年度 14.1 %		2019年度 9.1 %	2020年度 10.3 %	2021年度 16.4 %	63%
7	②郊外漁村エリアの持続可能な地域づくり	漁獲量	2018年度 458.8 t		2019年度 487.1 t	2020年度 455 t	2021年度 547.4 t	83%
8	③持続可能な都市づくりのための人材育成	高校生の市内就職率	2018年度 82.5 %		2019年度 87.8 %	2020年度 79.1 %	2021年度 91.3 %	87%
9	③持続可能な都市づくりのための人材育成	ボランティア登録団体数	2018年度 422 団体		2019年度 480 団体	2020年度 484 団体	2021年度 425 団体	2067%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

2020年1月に、SDGsに取り組む企業や団体のパートナーシップを深め、各々の活動の活性化を目指すとともに、地域におけるSDGsの達成に向けた取組の推進につなげるためのプラットフォームとして「和歌山市SDGs推進ネットワーク」を設立し、官民の垣根を越えても持続可能社会の構築に向けて活動している（現在、200を越える会員が加入）。

また、2020年12月に地元テレビ局で制作・放送いただいたSDGs推進特別番組が好評だったことから、和歌山市SDGs推進ネットワークの会員でもある当該地元テレビ局が、ネットワーク会員を含む県内企業から協賛を受けて、SDGsの普及啓発を行う番組を2021年8月以降、毎月放送することとなり、自律的好循環の流れが生まれつつあると感じている。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【再掲】年68件ベースを想定していた「創業件数」や、「高齢者が住み慣れた地域で充実した生活を送れていると思っている市民の割合」は順調に推移し、ボランティア登録団体数は既に目標値を達成している一方、直近で数値を拾えたその他の指標の進捗は思わしくない状況となっている。特に、コロナ禍により、「観光消費額」と「年間宿泊者数」の数値には大幅にマイナスの影響が現れている。厳しい状況が続くことが予想されるが、今後の反転攻勢に向け、国立公園友ヶ島の魅力向上に向けた取組等に尽力しているところである。

モデル事業提案の際、友ヶ島活用ランドデザインの策定として、民間企業と連携しワークショップ等に取り組むことを目指していたが、現在、友ヶ島をフィールドに、環境と観光が両立するプロジェクトを考えるアイデアソンの開催に向け準備を進めており、多様な立場の方に参画いただくことで、産官学の連携強化の機会にもしたいと考えている。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・郊外漁村エリアへの取り組みがどのような成果を生み出すのか非常に期待できる。計画では2030年の漁獲量目標値が非常に高い値となっているが、どのような裏付けでこのような数値目標を掲げられているのか。取り組み成果として期待されるのであれば、今後が期待されるものであり、ぜひ具体的な成果としてまとめられることを期待する。
- ・まちづくり活動やふれあい活動に関する市民の満足度が低下していることが危惧される。創業件数は当初値が140件なのに年68件を想定していたということになるのか。